

こどもたちのための 森の学び場づくりと 体験活動「木こりの学校」



助成区分	植樹	環境保全	調査・研究	教育・啓蒙
体験活動 参加人数	271名	活動の全体目標に 対する達成度		85%

実施状況

整備活動
参加人数 **205名**

課題

子どもたち自然離れが深刻化している。
周辺には多くの里山があるが、そのほとんどが放置され、倒木や松枯れもひどく、憩いの空間になっていない。

活動内容

<整備活動>

- ・月に1回、団体の定例活動として森林整備を行う。
- ・作業内容は間伐・枝打ち・下草刈りなどの森林整備活動の他、遊歩道や広場の造成など空間の設えも行う。
- ・整備で出た材は、体験活動の薪などに利用する。

<体験活動>

- ・「木こりの暮らし」をコンセプトに、親子向け体験活動、「木こりの学校」を月1回のペースで開催する。
- ・森の整備作業と一緒にいながら、木工や焚火でのごはん作りなどを行う。

成果

- ・1年間で、計37回の整備活動を実施し、総計で205名分の労力をかけ整備を行った。
- ・森の約3haを森に親しむ空間として維持・管理することができた。
- ・体験活動は、全10回で合計271名が参加した。
- ・地道な整備活動と、試行錯誤の体験活動により、森に親しむ機会を創り出すことができた。
- ・人と森をつなげる一助となることができたといえる。

工夫した点

- ・定例活動だけにしぼられず、それ以外の日程でも、有志が集まった際には作業を行えるように、常に日程を調整し合った。
- ・整備で出た材木を、薪棚や遊具などの資材として活用し、より空間づくりが楽しくなるようにした。
- ・体験活動は、単発のイベントではなく、みんなの力で学び場を作っていくながら、徐々に森への愛着が深まるようなストーリー性のあるプログラムとした。

今後の課題

定期的な整備活動・体験活動を実施したことで、リピーターと呼べる参加者が定着したが、その一方で、常に参加者の8~10割がリピーターであり、活動を深めることはできても、広げることに苦戦した。
これまでの地道な活動を維持しつつ、よりシンプルなプログラムとして、里山保育活動「森のこどもえん」をひらくことで、これまで情報が届かなかった人たちを森へ誘えるように取り組んでいく。